

平成24年8月28日改定

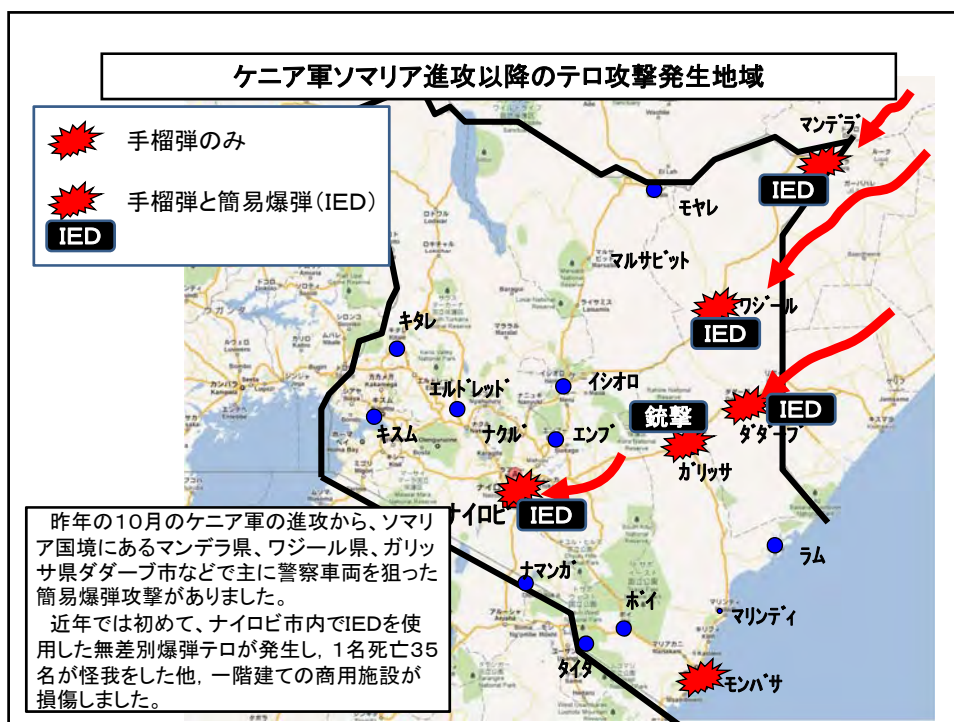
テロ対策

ケニアのテロ情勢

- 2012.10.15 **ケニア軍、ソマリア進攻**
イスラム過激派アル・シャバáb(以下AS)は、ケニアへ報復を宣言。以後、ナイロビ、モンバサ、ガリッサ、ダダーブ、ワジール等で手榴弾・IED使用による爆弾テロ事件の発生
- 4.23 米国大使館によるナイロビ市内におけるテロ攻撃警告
 - 4.29 ナイロビ市内教会に対するテロ攻撃 1名死亡
 - 5.15 モンバサ市内ナイトクラブに対するテロ攻撃 1名死亡
 - 5.28 **ナイロビ市内商用施設**に対する爆弾テロ攻撃 1名死亡
 - 5.30 ASによる「**高層ビル等テロ攻撃予告**」
 - 6.20 モンバサ市内における**15キロの爆発物原料**の押収
 - 6.22 米国大使館によるモンバサ市内におけるテロ攻撃警告
 - 6.24 モンバサ市近郊のバーに対するテロ攻撃 3名死亡
 - 6.29 ダダーブ難民キャンプ ノルウェーNGO団体活動家4名誘拐
 - 7.1 ガリッサ市内教会に対するテロ攻撃 17名死亡

ケニアは徹底的にASを撃退する旨重ねて宣言

大規模テロ事件の発生の可能性はある



テロ対策

テロ攻撃のターゲット

1. 政府関連施設
2. 軍・警察関連施設
3. 米国、英国、イスラエル権益施設
4. 高層ビル、ホテル
5. 航空機・空港、列車・駅など交通機関
6. ショッピングセンター、レストラン、ナイトクラブ、教会



手榴弾爆発現場－（ナイロビ全体図）【解説】

現在までの、ナイロビ市内での**主な爆発事件**は、**シティーセンター**という市の中心部周辺で発生しています。

シティーセンターは昔からの**市の中心部で、現地ケニア人で賑わっています**。同地域は、官公庁、高級品店、各種ショッピングセンター、食堂街（バー等）、高級ホテル、廉価ホテル、バスターミナル、駅などが集まっているエリアです。**いくつかの邦人企業**もシティーセンター内にオフィスがあります。周辺には公園、市場、長距離バスターミナルなどがあります。

一方で、多くの在留邦人が住んでいるところは、青色丸で示した「邦人居住区」であり、買い物はシティーセンターではなく、市内に点在する駐車場の広い**大型ショッピングセンター**（図中「SC」で表示）ですることが多くなっています。邦人の勤務する会社の一部は、このエリアにあります。

社会に対する影響が大きいほど、テロの目的が達成できることから、今後**在留邦人の方が利用するショッピングセンターなども引き続きテロの対象となり得る可能性がある**ことを考慮しておかなければいけません。

テロ対策

事例

ナイロビ市内中心部商用施設発生の爆弾テロ攻撃

5月28日ナイロビ簡易爆弾テロの概要



5月28日(火)13:15分、ナイロビの中心街シティーセンターの**モイ・アベニュー沿い**(細部地図後述)にある廊下の左右に露店を46店舗並べた1階建ての**商業施設**で**簡易爆弾(IED)**による**爆弾テロ**が発生しました。

店にいた店員や客36名が火傷や打撲などの怪我をして病院に運ばれ、その内**1名死亡4名が重傷**でした。爆発は天井のトタン屋根を吹き飛ばし、床に穴を開け、店内の鉄筋などを曲げる**威力**がありました。

犯人と思われる男性は、あごひげを伸ばした**アラブ系中年男性**で、一度、朝10時30分に店にTシャツを買うふりをして店に入り、衣料品店の女性店員に話しかけ、一度外に出ました。その後、**昼1時にもう一度店に入り**、店員がTシャツが店にないため、商業施設内の他の露店に探しに行っているすきに、簡易爆弾の入ったバッグを置き、友人を外に迎えに行くふりをして、店の外に出ました。その後すぐ爆発が起きました。爆弾は**携帯電話などによりリモート操作**したものと考えられています。

ナイロビ簡易爆弾テロの特徴

- ・首都ナイロビで爆発力の大きい簡易爆弾 (IED) が使われた

イスラム系テロ組織アル・シャバーブは昨年10月、ナイロビの高層ビルに対する攻撃意図を発表。

ダダーブ、マンデラなど北東州で使用されていたIEDを首都で使用。

簡易爆弾(IED)は手榴弾に比べ、爆発が大きく、建物に被害を及ぼす。

今年4月、米国大使館がホテルなどに対するテロの可能性を示唆し、警戒を呼びかけていた。

- ・比較的邦人の行く可能性のある場所・時間帯で起こった

最も人混みのあふれるランチタイムに発生した。

シティーセンターのモイ・アベニュー沿いで起こった。

- ・警備の薄いところで起きた

ビル入口には警備員が配置されておらず、持ち物検査を行っていなかった。

露店の店員はバッグ等不審物に注意を払わなかった。

ナイロビの一連の手榴弾事件も、バス停、バー、教会等、人が集まる警備の薄い場所で起こっている。

- ・実行犯は、2度現場に足を運んでいた

教会の手榴弾爆発事件でも、容疑者は一度、現場を下見し、2度目に現場に来た際に犯行に及んだ。

テロ攻撃に対する予防策

- ・シティーセンターでは可能な限り、行動（宿泊）しない

ケニアのシンボル

現在までのところ、多くの爆弾事件がシティーセンター周辺で発生。
行動するに際しても、最大限警戒し、滞在時間を減らすなどの工夫を。

- ・警備の手薄な場所には行かない

ソフトターゲット（防護がなく、攻撃しやすい目標）は狙われやすい。

- ・人（特に現地の人）の多く集まる時間帯・場所には近づかない

テロは一度に多くの人を殺傷し、建物等への影響の大きいところを狙う。

- ・公共の場所（ホテル、官公庁、ショッピングセンター）では周囲を警戒し、不審者・不審物などに注意を払う。

今回の爆発では、露店の店員が不審物に注意を払わなかった。外国人のよく利用する施設も狙われる可能性があることを認識し、警備員などがある場合でも、各人が不審者や不審物の存在に注意を払う必要がある。

テロ攻撃からの退避策

爆発音を聞いたら

- その場に伏せる
- 机など頑丈な場所にもぐり込む
- 現場から避難する

現場付近に居合わせたら

- 事件現場に近寄らない
トラップ爆弾、セカンド爆弾の攻撃の可能性あり